



水の思い出 ④9

ようかいざん
要害山の頂上にあつた「山
入城(国安城)」は、延元年間
(1336~40) にしのみんぶだゆうはる 西野民部太夫温
みち 通が築き、後に さたけさだよし 佐竹貞義の七
やまいりもろよし 男山入師義が修築、居城した
と伝えられています。その後一
転して佐竹氏と山入氏は不和
となり争いが続いたそうです。

昨年、市民提案型まちづくり
事業に地元の「国安げんき会」
が手をあげ、山入城跡への進
入路の整備や看板の設置を行
いました。草に任せるままだつ
た城跡は、いにしえを思いなが
らたどれるほどになっています。
昔のものか新しいものか、はっ
きりとは解りませんが、佐竹氏
の家紋にも用いられている扇
の形をしたつくばい風の石が、
その入り口付近に置かれたま
まとなっています。その扇面を
見ると、この地で繰り広げられ
た戦いの歴史、数百年の時の
流れが水面から立ち上がって
くるように感じられました。

(馬場町 塩原 慶子)

水府国安町

常陸太田市では、自分たちの住む地域の資源を調査する地元学がすすめられています。その活動の中で、「つい見過ごしてしまいがちな風景の中に地元の宝物があり、案外地元のことを知らなかった」と言う声を聞きます。子どもたちも学校の授業で地域について調べています。学校に足を運ばないと目にするのでできない発表も多く、今回はその中から活動の力作の一部をご紹介します。（岡崎 靖・中里 勇・塩原 慶子）

子どもたちからの提言！ 佐竹氏を大河ドラマに!?

佐竹小学校

佐竹小学校では、授業で地域の事を調べるだけでなく、どうしたらみんなに常陸太田市のことに興味を持ってもらえるかを考えながら取り組みました。テーマを広報紙やインターネットで調べて決め半年間かけて活動しました。



雪村うちわ、天神ばやし、西山荘、佐竹寺、梵天山古墳、鯨ヶ丘倶楽部、鯨ヶ丘の坂、商工会、ぶどう園、グリーンふるさと振興機構、太田のまつり、「子どもさー来」、米の作り方などについてグループに分かれてしらべました。



調べてきた事を模造紙やパソコンでパワーポイントにまとめ、それをもとにシンポジウムを開き、グループごとにプレゼンテーションを行いました。地域探索に関わって頂いた方たちと、今より常陸太田市をどうしたら良くなるのかなど意見を交わしました。



活動前は佐竹氏や黄門様のことなど興味がなかった子どもたちでしたが、シンポジウムでは「常陸太田市をもっと良くPRするには、大河ドラマで佐竹氏を取り上げれば良い」など素敵な意見がたくさん出ました。地域の歴史や文化に興味を抱けるよう地域探索をこれからも続けていってほしいと思います。

中国では龍が人を守ると考えられています。亀趺とは龍の子どものことです。頭が龍で体が亀です。死んでからも龍に守ってもらいたいという思いがこめられています。

地域でのエコミュージアム活動

地域の様々なグループが、独自の視点でエコミュージアム活動を実践しています。地域資源を見つめなおす視点、地元の文化伝承という視点での取り組みを紹介します。（岡崎 靖）

地元の「イイな!」・「どうして?」を知る親子探検

おざと楽区たんけん隊

普段子どもたちが学校までかよっている道。道の途中には「見ていない」「知らない」ものがたくさんあります。それは親たちも気づいていない地域のお宝。小学校とPTAが連携し、小里小学区で始まった「あるもの」探しの親子探検が「おざと楽区たんけん隊」です。



小里学区内の旧大字を探検場所にして、道端にある野仏や道標、今は畑になっている城跡、かつて生活用水を集落に導くための取水

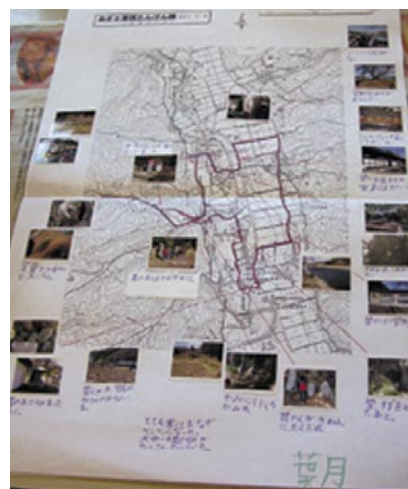


口、そしてその場所特有の地形や自然をデジカメと1万分の1地形図を片手に親子で探検します。その後学校に戻ってデジカメで撮った写真をプリント。別に用意した1万分の1地形図に貼り付け自分たちだけの探検マップを作ります。

探検終了後には、「すばらしい自然や史跡に触れながら親子で言葉を交わしながら過ごす機会が持



ててよかった。」「疲れたが、きれいな滝を見ることができ、疲れも半分に。我が子は友達と歩いたことが楽しかったようだ。」「里美に住んでいてもなかなか行く機会のない所を探検できて良かった。」「子どもだけが知らないと思っていたら実は大人も知らない場所がたくさんあった。」などの感想が寄せられ、参加した人たちはそれぞれに楽しみながらふるさとの再発見ができたようでした。



地域の子どもは地域の手で



郡戸親子クラブ



金砂郷地区の郡戸小学区を拠点とし地域の子どもたちに体験の場、思い出作りの場を提供する活動をしている「郡戸親子クラブ」。地元自治会、老人会、子ども会などが協力して様々な活動を行っています。



正月のしめ縄作りや鳥追いなどの伝統行事を通して地域文化の継承に取り組む一方、小学校のグラウンドいっぱいにろうそくでクリスマスツリーを描くなど新しい取り



組みにもチャレンジしています。

「地域の子どもは地域の手で。地域文化の継承活動を通して子どもたちの思い出作りの場、お年寄りの活躍の場ができる。様々な世代の人が同じ時間を共有することにより、つながりが生まれてくる。」と代表の鴨志田さん。参加している人すべてが生き生きとその時を過ごしていたのが印象的でした。



【広告】

第三回 鯨ヶ丘落語会 平成22年6月26日(土)

チケット◆2,000円(当日券2,300円) 全席自由・各回50名定員

①午後1時30分開場 午後2時開演 ②午後4時30分開場 午後5時開演

問 合 せ◆cafe結+1 tel 72-8860

後 援◆鯨ヶ丘商店会

出 演◆隅田川 馬石(すみだがわ ばせき)

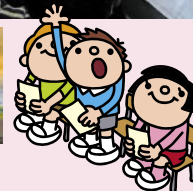
本格落語をお座敷で
お楽しみ下さい!



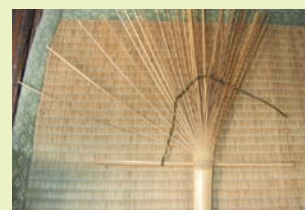
地元のことは子どもたちに聞こう!



ながた も
えもん かん えもん
西小沢小学校の子どもさんたちは毎年「永田茂
衛門・勘衛門父子」について調べています。小学
校の近くに用水路が多くあったことなどから、ま
ず自分たちの身近な事柄をきっかけとして取り上
げます。そこから自分たちの地域の成り立ちや、
ふるさとに尽くした人々までさかのぼって調べて
いくそうです。調べ、まとめている時の子どもた
ちの目はとてもきらきらして、知るという楽しみ
が瞳の中にのぞけるようです。



旧4市町村が合併して5年、北中学校では地元を知
ることからはじめ、ついで新しい常陸太田市全体の理
解を深めようと学区外へも足を伸ばしました。地元の
代表として「常陸秋そば」、そして合併後の新常陸太
田市から「雪村うちわ」の製作者坏さんをピックアッ
プ。下の写真のような発表としてまとめた以外に「大
好きいばらき作文コンクール」にも応募し入賞しまし
た。知識だけでなく、若い常陸太田市民が一步一步育
っていく様子がとても頼もしく見えます。



うちわの骨組み (左) 坏さん作 (右) 生徒さん作



『ドッカの春』

もう10年も前に夫が水府持方集落から分けてもらってきたウドの根。我が家の山間の畑に植え付けてから、毎年4月になると顔を出す。ろくに草取りもしてもらえず一見原野のような畑のあちこちから、草に負けじとニョキッと顔を出す。それを見つけて慌てて周りの草を取りながら、収穫する。根元まで慎重に掘り進み、根株と茎の分かれ際をザクッと包丁で切る。その手ごたえと漂って来るウドの香りは何ともいえぬ春の喜び。

地元ではウドのことを「ドッカ」と呼ぶ。「子どもの頃は来る日も来る日もドッカばかり喰わされて嫌になっちまった」という話もよく聞く。ドッカの個性的な味と香りは他の野菜とは比べ物にならない。特に山で採れる山ウドは、葉の緑の部分も柔らかく、味も

濃い。こちらに住む前は、ウドって白いものだと思っていたが、白いのは土に隠れている部分だけで、あとは緑から赤みをおびた葉と産毛のある茎を伸ばす。表皮さえむけば、中は柔らかく、薄緑色をした茎を、生で酢味噌に和えたり、サッと茹でてじゅうねで和えたり、煮たり、卵とじの味噌汁にしたり。好きな人はいっぱい作って塩漬けにしておく。そして、ドッカのなくなる頃取り出して塩抜きして、煮直す。春の山菜はどれも塩漬けにしておくの良いとみんな言うが、私にはその手間がかけられず、いつも採れすぎれば人に分け、たらふく自分でも食べて終わるドッカの春。でもよそでお盆やお正月に山菜の煮たものなどを振舞われると、格別においしく、今度こそ自分も塩漬けして、季節以外の山菜料理を愉しむぞと思う。

(木の里農園

布施 美木)



子育て
奮闘記

踊るママパラダイス 49

コキノが中学生になりました。我が家はランドセルから卒業です。

3人目ともなると私にとって中学校は新しい環境ではなく、よく見知った場所に送り出すため安心です。しかも今年はコースケの進学も重なったせいか中学入学の心配をする時間が僅かでコキノには申し訳ない感じもします。

しかし、子どもに対して心配しすぎるとするのは、やり過ぎてはいけない感じもします。以前にも書いたかと思うのですが、1番上のスミレは私にとっての初体験ばかりでついつい口出し手出しが増えます。すると本人は親が段取りしてくれるまで動かない。遅れがちな朝の準備でさえ急いでいるようには見えません。その点コースケとコキノは、自分でやる分、作業のときばえは荒くなりますが、親が口を出す前にある程度のことのできている。「手を離しても目は離さない。」子どもが大きくなると良く聞くお話。それが難しい。口や手を出さないとイライラする、自分でやった方が早い、でもやりすぎると子どもが自立できない…。子育てとは忍耐なり…か？大きくなってても子育てって続くんですね。皆さんの子育てはいかがですか？

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

自己完結タイプ



リレーエッセイ「思い出の絵本」『100万回生きたねこ』～49～

(天神林町 吉見 陽子)

私がもう10年以上も大切にしている絵本があります。それは披露宴のスピーチで、恩師が朗読してくれた「100万回生きたねこ」です。最初に聞いたときは、「ふ～ん」ぐらいだったのですが、プレゼントしてくれたこの絵本を、家に帰って読むと胸がいっぱいになってしまいました。

100万回死んで、100万回生きたねこ。100万人の人がそのねこをかわいがり、100万人の人がそのねこが死んだときに泣きました。でも、ねこは1回も泣きませんでした。自分が好きだったねこがある日、白い猫に出会い…。

この絵本の主人公はねこ。ちょっと長い文章も、テンポよく読み物語の世界にぐいぐい引き込まれていきます。場面、場面にあった絵も想像を膨らませてくれます。

どちらかといえば大人向けの絵本だと思いましたが、娘が小さい時には時々読み聞かせていました。そのせいか、字が読めるようになると自分で読むようになりました。幼稚園生の娘には少し難しいかなと思いましたが、娘なりに感じるところがあるようです。絵本はたくさんありますが、この絵本を選んで下の子やぬいぐるみ相手に、先生になって読んでいたこともありました。

まだまだ先のことですが、将来、娘に大切な人ができ結婚することになったら、私もこの絵本を贈ろうと思います。

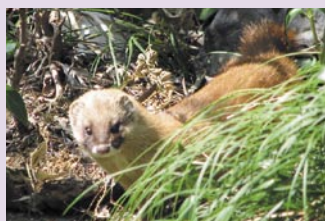
(次回は 藤田町 小川 久美さん)



ほつ とひといき

イタチ(イタチ科)

常陸太田市大里町のあるお宅の庭先にイタチが住みついています。朝晩や人気の少ない昼間にひょっこりと庭先に顔を出します。平成21年4月13日 佐藤千賀子さん撮影



愛嬌のある顔をしています、とてもすばしっこく、大変どう猛です。

イタチはネコ目に属し、平地から山地まで幅広く生息しています。カエル・ネズミ・鳥類や昆虫類を食べています。昨年春、キジがイタチに襲われ、羽根だけを残して食べられているのを目撃したことがあります。

イタチ類はオスに比べてメスの体が極端に小柄です。

市内では、よく似た仲間のテンも生息しており、平成19年12月に大平町にあるゴルフ練習場前の国道で車にひかれた成体を確認しました。(古平 均)

ちよつとひといき「La Felice(ラ・フェリーチェ)」

「常陸秋そば」の手打ちパスタが食べられるレストランは、大方町「JAみずほ」のはす向かいのシンプルな白い建物です。常陸秋そばの風味とコシのあるパスタや、ぷりぷりした魚介類のピザはお勧めです。食材は、金砂郷生まれの椎名シェフのお母さんが育てた野菜や地元産でとてもフレッシュです。パスタコースは前菜・サラダ・パスタ(手作り生パスタ・常陸秋そばパスタ有り)・デザート・コーヒーで¥1,580。La Feliceは、お友達という意味、気軽にイタリアンを楽しめるお店です。

(相原 早苗)

常陸太田市大方町1695-5

☎ 0294-76-1917(駐車場有)

営業時間 11:30～21:00

定休日 第2・4水曜日

★ランチ ¥980～

(15:00まで)

★夜のコース ¥2,000～

予算に応じて

★お弁当 ¥630～

予算に応じて



常陸太田の地名話 ～4～

すい りゅう

瑞龍【太田地区瑞龍町】

墓を改葬した時、白蛇が出たというので、延宝7年(1679)瑞龍山のある随留村の村名も瑞龍村と改めたという。随留村には佐竹時代から、瑞龍院という村中を檀家とするお寺も存在していた。

光圀作、瑞龍近郷産物の歌がある。

馬場御器に 瑞龍ににくとうがらし 小野編み笠に藤田すけ笠

『水府誌料』『水戸義公傳記逸話集』『水戸徳川家墓所』(石川 誠)



瑞龍町 此れに従えの道標

お詫び と訂正

前々号(48号)8ページの「市内で買えるいちご屋さん特集」で掲載しました「椎名重雄」さんは「椎名重夫」さんの誤りでしたので、お詫びをし訂正いたします。